



TITLE:

有田焼の經濟地理學的考察

AUTHOR(S):

白尾, 榮

CITATION:

白尾, 榮. 有田焼の經濟地理學的考察. 地球 1932, 18(6): 439-450

ISSUE DATE:

1932-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184113>

RIGHT:

- 7、渡邊 貫 土木地質學 工事篇 昭和三年 東京
地下水と隧道工事 一四六—一七七頁
- 8、渡邊 貫 地下水に就いて 地球 第十三卷
一九〇—二〇一頁
- 9、渡邊 貫 土木地質學 岩波講座 地質學及び古生物
學 應用地質學の部 地下水
- 10、駒田亥久雄 溫泉岳火山地質調查報告 震災豫防調査會
報告 第八十四號
- 11、大日本地震史料 震災豫防調査會報告 第四十六號(甲)
卷之十(自寛政元年三月至文政十一年十一月)
- 12、金井 俊行 寛政四年島原地變記 地震 第二卷
三八九—四一一頁 四五二—四七六頁
- 13、佐藤 傳藏 地質學上より見たる島原半島の地震 地學
雜誌 第三十六年 一一二頁
- 14、佐藤 傳藏 泉の説 地學雜誌 第三十二年
四七五—四八四頁
- 15、佐藤 傳藏 寛政四年溫泉岳前山の山崩説を駁す 地球
第四卷 四三七—四四六頁
- 16、大森 房吉 寛政四年肥前島原溫泉岳前山の崩潰に就き
て 地質學雜誌 第二十五卷 二五六—二五八頁
- 17、大橋 良一 溫泉式火山とカルデラ式火山
地質學評論 第三卷 一一五三—一一五八頁
- 18、上治寅次郎 泉になるまで 地理教育 第八卷
三五三—三五七頁

有田燒の經濟地理學的考察

白 尾 榮

一、概 説

我が有田は西南日本に於ける製陶業の核心で
東方の瀬戸と相對立的に存してゐることは、今
更述べるまでもないことである。……『本邦に

於ける陶磁器生産分布については田中啓爾先生
著、中等日本地理第五十四頁を御参照の程を。』
……今から次に普通一般に知られてゐないと思
はれる個所にふれて見たいと思つてゐる。

製陶業が發達するには、原料の供給狀態・動力の供給如何・或は勞力・消費地との諸關係等の如き多くの事情が結合せられて始めてそこに製陶地としての聚落も發生してくるわけである。

地理教育第十五卷五號及び六號には佐々木清治先生の『工業立地形態』と言ふ題目の下に多くの工業諸型式が擧げられてある。我が有田の製陶工業があつた型式中何れに屬するものなりやについては淺學な私のよくし得ないところであるから、此處に獨斷はぬきにする。

要するに、世界無比の性質を帯びてゐると言はれる原料を町内に持つてゐながらその實有明海の出口なる天草島から大部分移入してゐる状態である。この點については地理教育十五卷七號中の拙稿『有田を中心とせる陶器業の地理的一面』について御覽下さい。

製陶業は本邦に於ても相當古い歴史を有するものであるが、全く家内工業的であつた昔は先祖代々傳へられた秘傳と言ふものが多かつた爲

に次の如き理由からして、すべての製陶地の位置が谷頭に在つた。否現在に於てさへもあらゆる多くの不便は知りながら尙ほ依然として祖先傳來の地を去り得ずにゐるのであらう。

(一)秘傳をなすだけ他にもらさぬとの風習。

(二)燃料として薪炭の得易い山地をえらんだ(三)傾斜地を利用した上り窯の存在。

之が適例は數限りなくあることであらうが、有田町に於ける製造工場は(主として上り窯のみであつた)全部東端の泉山と言ふ處に在つた。次の俗語は甚だ低劣ではあるがこの間の消息を充分言ひ表はしたものと思ふから記してみよう。

有田皿山茶碗山

チヨコく登れば泉山

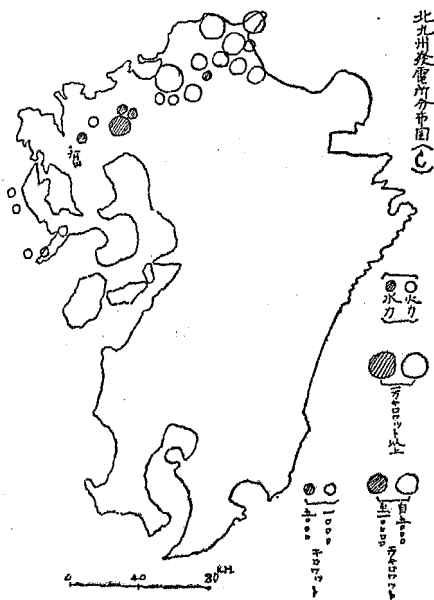
之は今も時々子供の間に詠はれてゐる。大人でも何かの席にては出されてゐることがある。地方味豊かなリズムを有してゐるやうである。斯様な有様であつたが、今ではその跡かたも

なく近年出来た二、三の家内工業的なところを除けば全部平坦部へと移動したので、現在町の中央部……白川流と泉山流との兩支流合してゐる地域……に小規模ながら工場地區を形成してゐるのである。

二、燃料及び原料

原料については拙稿『有田を中心とせる陶器業の地理的一面』に出てゐるから此處にはあまりふれないことにする。陶土は町の東端なる泉山に採掘せられ易々として西方……西方は高度を減ず……の工場地區へ主に荷馬車に依り運搬せられてゐる。勿論陶土にはその性質の良否に依り一等・二等・三等などと區別せられてゐる。次は燃料についてであるが、以前は燃料としては全部薪炭であつたことは前述せる如くである。上り窯・赤繪窯(錦付のための窯)共に薪炭であつた之には火力がやはらかであると言ふ特點はあるが同時に火力が弱いと言ふ欠點にもな

第一圖 發電所分布圖



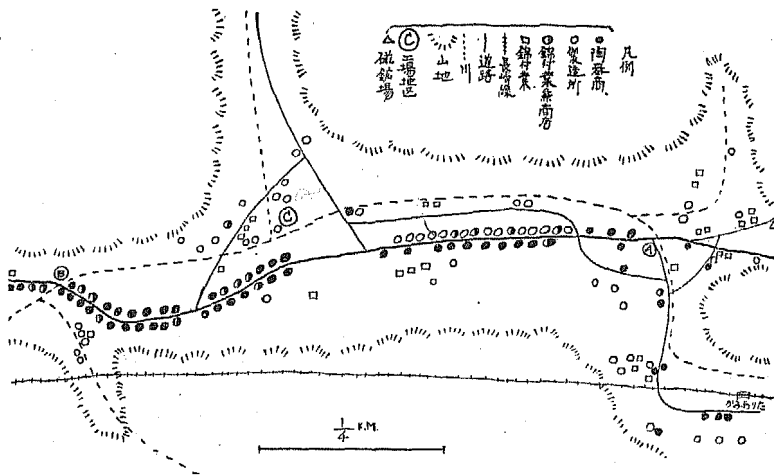
る。而し近時石炭・白炭の供給が容易になつて来たせいにか、一間窯は全部石炭となり、赤繪錦の方は全部白炭と變つてしまつたのである。石炭は本邦最大供給能力を有する北九州の大炭田を控へてゐるため、大いにその運搬費に於て利するところがある。白炭即水力電氣にしる第一圖(C)の如き多くの發電所の分布を見その送電も容易である。

三、陶都としての特色

およそその地が工業町であるか、商業町なるか、或は又門前町等として發達してゐる町であるか否かと言ふことを一目瞭然たらしめるためには、該町の職業別分布圖を作製してみることに、最も良い方法で地理的價值も豊富であることは今更強張するまでもないことである。

第二圖は有田町に於ける職業別……製陶業に關係ある職業のみ……に依る分布圖である。即ち有田町は谷底に發達した東西に細長い四軒足らずの谷底町^{キムソノマチ}とも言ふべきところで、圖に依つて見る如く本通りには相當、陶器商が並んでゐる。有田町で主なところは圖中AからBまでであるが、此の間に於ける兩側の街道に面せる戸數は全部で二百五十三戸である。この中北側が百三十戸・南側が百二十三戸である。此の間に於ける陶器商（卸商・小賣商共に含む）及び錦付業兼陶器商は北側に三十五戸・南側に二十九戸であるから結局、北側に於て二六・九%、南

第二圖



側に於て二三・六%となり兩側を通じて平均すれば二五・三%となる。而して僅か三割に過ぎずして陶都としての特色は濃厚に表現せられてゐないがそれは次の如き理由からである。

即ち有田町は工業的聚落であると同時に又佐賀縣西部に於ける武雄・唐津・伊萬里等と相まつて地方的一小經濟的聚落なることを見逃してはならぬ。……町の中央部に前記職業別に依る分布が粗なるは全くこの中央部には地方向の諸店が軒を並べてゐる。……

香蘭社(本家)・深川製磁會社(新宅)の二つの工場を除けば他は大部分家内工業式であるが、之を次の如く三段階に分つ。

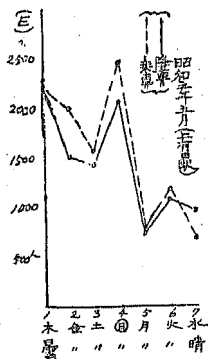
(一)工場	(全製造戸數に對する率)
(二)半工場家内工業的	$\frac{1}{20}$
(三)家内工業的	$\frac{1}{5}$
	$\frac{3}{4}$

而して圖中工場地區を除いた地域は殆んど全部と言つていひ位家内工業的である。殊に錦付

業に至つては(二)及び(三)に屬するものばかりである。

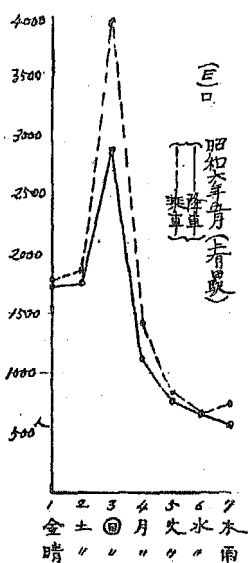
四、市と行商

市の時期を五月一日より七日まで、即ち五月に選んだ點は最もよく我が國に於ける氣候狀態を考へたものと言へよう。西松浦郡陶磁器工業組合の主催にして、通稱藏ざらへ又は陶器市と言はれてゐる。會期を一週間にすれば後半に於ては相當ダリ氣味があるがその間一度の日曜日欲しさと言ふ觀念からであらう。(E)に依ればその間の消息が了解せらるるであらう。

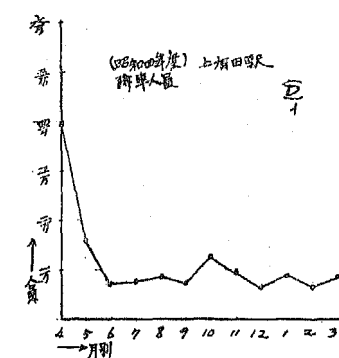


即ち讀者は七曜別及びその日の天候とを考へ合はせて

この此の表を見られるやう望む。

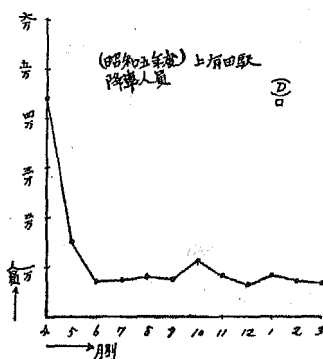


之は會期中に於ける乗降車人員表であるが次の(D)表に依つて一ケ年間に於ける五月の乗降車人員がどの程度にあるかを知り得ることが出来る。此の表に依れば四月最大多數を示してゐるが、



之は武雄・伊萬里方面へ通學する男女中學生の定期券を買ふ時に當

つてゐるからである。次の多數を示してゐるのが即ち陶器市を控へてゐる五月である。序に十月の多いのは、有田町年中行事の一たる秋祭が十月十六・十七の兩日に行はれるのと、同月初旬毎年伊萬里に於て郡内青年團の陸上競技等が行はれるためである。要するに五月は四月の特別季節を除けば斷然頭角を表はしてゐる。



次に五月一日より七日までの一日降車平均數は一三五〇人となり、五月八日より末日までの一日降車平均數は一六八人となる。之に依れば普通日の降車平均數の約八倍といふことになることに依つても、その當時の有田町にとつては一年中に於て最も盛況を呈す

第三圖 (F)



左方に丸火鉢(通稱ピンカケ)が入口にたくさん積んであるがその外大事なのは勿論家の中の方においてある。會期中は各商店に公民學校の男女各生徒が(實習のため)たくさん入り込んでゐる。

ることがわかる。第三圖(F)は昨年の情景である。寫真に見る如く道路は不整然としてゐるがそれは昭和三年末道路改修のためで、今日は簡



單ながらもアスファルトに依る道路が立派に完成してゐるから、面目一新した現状を見物に今年の陶器市にお出かけになつては如何?)

次に陶器市期間中に於ける上有田驛降客地方別圖を作製してみた。第四圖(G)イは之である。……有田驛をも含む……八十軒

第四圖 (G) イ

環線以内で圖中に表はれてゐなくても實際その地方から來客がなかつたことを意味するものではない。あまり少ないので驛の方では、例へば門司驛から鳥栖驛までと言ふ工合に數を出してあるからである。又第三圖(F)の左方に見るが如

(G)ロ

(括弧の中は不明なるを以て豫定數を示す)。

き服裝をして隣村あたりからは歩いて來る者が非常に多い。(G)ロ表に依つて東の大關が武雄・西の大關は佐世保であることがわかる。かくの如く陶器市期間中に於ては有田町にとつて經濟的に最も大なる影響を及ぼすことにな

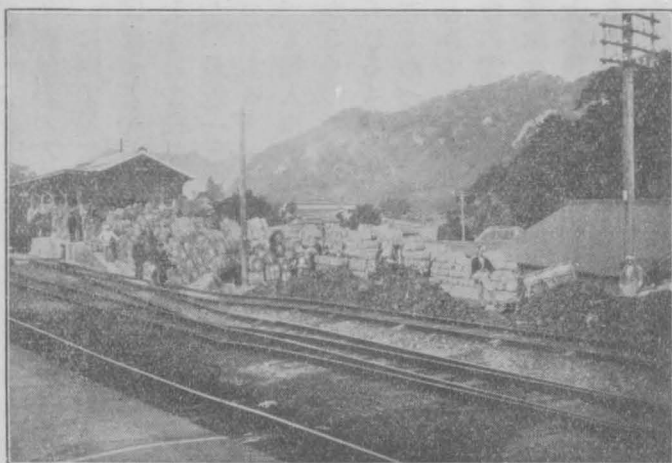
ることがわかるであらう。故に前述せる如くAからBまでの陶器商は三割に過ぎなかつたが、この期間中に於けるそれは八割以上にも達する位である。

この市と現在上有田驛の位置を考へてみるに、町の發展上密接不離の關係が存する。驛が若し町の中央部にあつたとしたら當然それより以東は漸次淋びれて行くであらうが、今の處東端にあるから先づよいと言ふものの東部にある泉山區は職業別分布圖で見る如く陶器商はわづか

地 名	年 度	5	6	合 計
武雄	雄坂	1651	1483	2134
三間	坂町	530	553	1083
大肥	山口	325	361	686
牛前	津口	320	165	485
高津	橋	290	146	436
北橋	方	290	261	551
久保	田	231	129	360
神保	崎	225	104	329
小崎	城	120	108	228
佐賀		119	(110)	229
トス	←→モジ	(680)	687	1367
クル	←→クマモト	(500)	506	1006
カ	ラツ線	(90)	92	182
早岐	以南	(270)	278	548
ソノ	他	(290)	292	582
伊世	保	(1900)	1910	3810
有田	里	1059	1245	2304
伊萬	里	469	397	866
早岐	内	255	263	518
三日	宇	251	243	494
日長	崎	225	228	453
桶久		130	(100)	230
大村		55	(50)	105
夫石		54	(50)	104
藏宿		40	(40)	80
彼杵		27	(20)	47
合計		24	(20)	44
		20	(15)	35
		10740	9856	20596

第 五 圖 (H)

三戸に過ぎない有様で、殊に陶器市に於けるAから東方はごく淋しいものである。爲に町内に



向ふの北側の南斜面の山の中腹に香蘭社(本家)と深川製磁會社(新宅)との廣告が見えてゐる。

於ても泉山區は戸數に於て一番多いが經濟的方面からは貧弱部落中に數へられてゐるのも全くこの地理的原因からである。第五圖(H)は上有田驛に於ける出貨狀況である。

行商と言へば越中富山の賣藥はあまりにも有名である。この地方では行商人のことを通稱『デアキナヒ』と言ひ、長崎線開通以來漸次多くなつて來たがそれ以前に於ては長崎まで歩いて行つて貿易商人との取引をやつてゐた有様であつた大正八・九年の全盛時代には二〇〇人以上ゐたと言ふが今では一〇〇人足らず位のものであらう。……行商人の數の明確なのがわかりにくいのは、誰でも人情の常として他に知られるのを防がふとするからである。……最近はこの行商界にも女性の侵出を見るやうになつたと言ふが此處にも社會の反映が現はれて來てゐる。その行先地としては、九州内には大抵支店を有してゐるから九州以外の地が最も多いが、之が大部分日用品であるからあまり粗密は見出されないで日本全國にわたり滿洲・上海方面へも出かけ

てゐると言ふ。

近年經濟界の不振甚だしく、從來の緊縮政策は大いに陶業界にシヨックを與へた。人間も窮すれば通ずとやら、産業知事とまでのニツクネームをうけた前知事半井清殿の指導獎勵の効あつてか、最近一部の方面に向つて相當の進出を見せつつある。

中でも婦人用裝飾品としての帶止の如きはその最たるものであらう。之は『イヨミ』に依つて作られるもの多くその上小型であるから製作費はごくわづかで出來上る。ところが名前が裝飾品ときてゐるもんだから高く賣らないと却つて社會の需要が少ないと言ふ話も聞かないではない。次は列車内使用の茶出し、酒樽代用のもので大小幾多の型が作られ店頭に永くすえて置くやうなものには到抵杉材の比ではあるまい。或は從來ブリキ製であつた手洗器まで手が延びつつあるが未だ大衆向ではなく、上流社會のものであらう。

長い間製造家と商人の間には論争がたえな

つたが去る一月有田陶磁器工業組合なる兩者の提携が行はれ經營の合理化に依る生産費の低減を期し、燃料と原料の共同購入を行つてゐたが之と對立する共同販賣を行つて販路の擴張をとげる必要にせまられつひに郡内に工業組合倉庫の四棟の建築を見た。

有田町一 有田村 一 大川内村 二

今後倉庫を大いに利用し當業者の結束に依る本縣陶業界の刷新飛躍を期してゐる有様である。

五、勞 力 問 題

人文地理の方面で最近特に『人間』の力なるものが強張せられるやうになつたことは喜ぶべき現象で當然すぎることである。吾人が身につける帽子も服・着物も下駄・靴も共に／＼人間の力と言ふものを除外しては到底考へ得られないことである。

製陶業に於ける仕事の種類に依つて次の如く三大別にすることが出来る。

(一) 細工 (二) 繪工 (エカキ)

(三) 雑工(アラシコ)

(一) 細工……この仕事は相當の體力がいるので、すべて二十五・六歳—五十歳位までの男である。之等(一)(二)(三)の人口年齢構成圖を作製すれば一層明瞭となるけれどもその域まで達してゐないから後日にゆづることにする。

(二) 繪工(エカキと通稱す)之は細分類すればされるがこゝには割愛しやう。之は終日坐しての仕事だからあまり體力はいらない關係上婦人の就職が非常に多い。一例をあぐれば次のやうである。

A 深川製磁會社(新宅)

種別	男工	女工
染付	一五	二〇
錦付	二七	二二

B 今泉工場

染付	一〇	五
錦付	四	三

こんな事情のために、小學校を出た娘達は(今では公民學校で繪書の實習があつてゐる)各工

場に見習工として暫時無賃で働き、やがて腕に應じて給料を支給せられそして五・六年も辛棒してゐると嫁入仕宅も相當に出来るやうになるこのことである。

(三) 雑工(アラシコ)

雑であるだけに仕事が一般に單純であるため誰にでもすぐ慣れる。隣村から出かけて来る者は多く之に従事してゐる。即ち農村の農閑期を利用して出稼の状態にあつたが、農閑期即ち工繁期ならざるためと、隣村殆んどが他府縣のそれに比して劣り、直線的農業經營にあまんじてゐる貧弱なる純農村であるだけに、雑工としてなりと出かけ来ることは眼前に見えたる財貨の供給所であつてくれるところから近來この現象が著しくなり一年を通じて通勤すると言ふ工合にまでなつて來た。

一番多いのは東部に連る住吉村の立野川内と言ふ附近から距離の關係上殆んど全部自轉車通勤であり女工は一人も見えない。次に同村宮野方面へ通ずる道路に依る通勤者も全部男子で

あるがこの方面の者は全部自轉車通勤ではない
次は西隣の有田村からであるが、この村内には
二・三ヶ所製陶工場があるため一部分のみ有田
町の方へ出かけてゐる。次の如し。

有田村内の部落名		男工	女工	計
桑古場		六	四	一〇
大野		八	〇	八
戸失		五	一	六
村		六	三	九
				三二

この有田村は有田町と殆んどその街道に於て
は連續してゐて距離も近いために八人の女工が

をり而も自轉車通勤者一人もゐないのである。
有田町内に於ては前記の泉山區は戸數が最も多
く而も經濟的に貧弱な部落中にはいると言つた
のも全くこの部落が最も大なる勞力の補給地區
たる所以をもつてなり。所謂職工部落とでも言
ふべきだらう。

六、結 語

以上皆様の前に出したら甚だつまらないもの
ですが、私にとつては相當努力をはらつたとこ
ろもあります。之に依つて幾分なりとも製陶業
の内面が御わかりになつたら望外の幸である。
長い愚見を之で終ることに致します。(七・三・二八)

○カムチャツカの泥炭

一九三一年調査隊の發表報告によれば、實地調査をなせる西海岸キウイノ川よりイーチャ迄の間
に於ては泥炭は平均三メートルの層を以て三十萬ヘクタールの地域に亘りて埋藏九億噸に達す、炭層は尙オーツク海沿岸に沿ひ
北方に延び約四五〇キロメートルに亘る見込、全埋藏面積は百三十萬ヘクタールを下らずといふ、東海岸に於ける調査は確實な
らざるも泥炭埋藏地としてはベトロパウロフスク附近即ちハラトウイルカ、アワチャ、パラトウシカ諸地方及ウスチ・カムチャ
ツトスク等を擧げ得べし、右の中最良質にして大量なるは西海岸キフチク、ポリシエレワツク、イーチャ地方のものなり、燃料
としては勿論建築材及家畜用床敷藁の代用等としても有効に利用し得、カムチャツカに於ては漁業罐詰工場等の燃料は從來莫大
なる費用を以て外國船を傭船し、石炭を大陸方面より輸送移入し來れるに鑑み、豊富なる地方泥炭の利用は將來注目すべき事業
なりといふ。